

コラム

切腹してお詫びする

脚気病の原因が栄養のアンバランスにあることを示すため、高木兼寛は筑波艦の乗組員をつかった壮大な栄養試験を計画した。実はこの計画をたてる前年（明治15年）、海軍では一大事件が起きていた。龍驤艦による太平洋5万キロ、9ヶ月の航海（ニュージーランド、チリ、ペルー、ハワイ）で、総員376名中実に169名が重症脚気にかかり、25名が死亡したのである（他の艦船においても状況はこれに近いものであった）。兼寛は筑波艦の乗組員に、この龍驤艦とまったく同じ航路を航海させ、しかも彼のレシピによる改善食（主に洋食）をとらせて脚気患者がまったく出ないこと（脚気を予防すること）を証明しようと考えたのである。

しかし兼寛がこの筑波艦の栄養試験にたどり着くまでには大変な苦労があった。とくに経費の捻出が大変であった。海軍大臣河村純義や大蔵大臣松方正義を動かし、有栖川宮威仁親王や公爵伊藤博文に依頼して、明治天皇にまで脚気問題解決の急務を奏上しなければならなかった。そしてこの天皇への奏上によって筑波艦の栄養試験が大きく可能になったのであった。天皇に申上げた所信には次のように脚気撲滅に対する彼のひたむきな情熱があふれていた。

「今やわが国の兵士はその多くが脚気病にかかり死亡いたします。そのため、どういたしましてもこの病気を予防することを計らねばなりません。この病気の原因を研究いたし、これを予防することができれば、日本国民および医学にたずさわる者の名誉でございます。わが国にかくも多数発生する病気の原因が外国の学者によって発見されるようでは、日本の学者の不名誉でございます。是

が非でもこれをはやく究めねばなりません。……

脚気病の原因は、高木の研究によりますれば、栄養の調合が悪いためであります。従来の白米を主とする兵食のように炭水化物が多く、蛋白質が少なすぎるためであります。軍艦が外国に長く碇泊するときには発生いたしません。これは洋食（肉食・パン食）が蛋白質を多く供給するからでございます。……

兵食の分析によりまして、かように従来の米食では良くないことが判明いたしましたので、これを早急に改善せねばなりません。陛下のご英断をもちまして、何卒これをお改め遊ばされますように願わしゅうございます。また、兵食の改善につきましては、現在の予算ではまかないきれませんので、この点につきましてもご配慮を賜りますようお願いいたします」

このようにして遂に筑波艦での栄養試験が龍驤艦とまったく同じ航路で始まったわけであるが、しかしいざ筑波艦が出航してみると（明治17年2月）、兼寛には少しずつ不安な気持ちが湧いてくるのも事実であった。ひょっとしたら筑波の栄養試験は失敗するかもしれない、もし失敗したら多くの兵士を殺すことになる、そして天皇に偽りを申し上げたことになる。

眠れない夜が続いた兼寛に、ようやく筑波艦から嬉しい電報が届いたのは7ヶ月後の9月であった。それには「ビョウシャーニンモナシ アンシンアレ」（病者一人もなし安心あれ）とあった。脚気患者は一人も出なかったのである。彼は哀心神に感謝した。従来の兵食（米食）で同じ航路をたどった先の龍驤艦からの電文は「ビョウシャオオシ コウカイテキヌ カネオクレ」（病者多し航海できぬ金おくれ）であったから、両艦での違いは明白であった。こうして脚気病の原因が栄養のアンバランスにあるという兼寛の学説ははっきり証明されたのである。

後年、若い軍医が兼寛に「もしあのとき筑波艦内に脚気患者が発生したら、その時はどうなさるつもりだったのですか」と問うたところ、彼は言下に「その時は切腹してお詫びするつもりであった」と答えたという。筑波艦の栄養試験はまさに己の命をかけた研究（臨床試験）だったのである。現在、医療者の倫理観が問われているが、臨床試験をふくめて医療行為はすべて何らかの責任をとまうものである。兼寛の態度はその一つの示唆になるであろう。